

岩手県金融経済概況（平成 27 年 1 月）

1. 概 況

県内経済は、消費税率引き上げの影響による反動が徐々に和らいでいる中、緩やかな回復を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は、総じて底堅く推移している。公共投資は、高水準で推移している。設備投資は、増加している。住宅投資は、高水準ながら前年割れとなっている。

生産は、持ち直しに向けた動きがみられる。

雇用・所得環境は、改善している。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、駆け込み需要の反動が徐々に和らいできており、総じて底堅く推移している。

百貨店売上高（平成 27 年 1 月）は、天候要因（気温：平年比高め）もあって冬物衣料品が不冴え裡に推移したほか、身回品、家庭用品で前年の反動減がみられたこともあって、前年割れとなった（前年比△4.3%）。

スーパー売上高（全店舗ベース）は、増加基調を維持している。

新車登録・届出台数（平成 27 年 1 月）は、前年高水準の反動を主因に、大幅マイナスとなった（登録車+軽 前年比△21.7%）。

(2) 建設投資（公共投資、設備投資、住宅投資）

公共工事請負金額（平成 27 年 1 月）は、震災復旧関連工事を主体に、高水準で推移している（前年比+15.9%）。

民間設備投資（短観ベース；平成 26 年度計画）は、製造業、非製造業ともに、新製品対応投資、省力化投資などに前向きな先が多くみられていることから、前年を上回る計画となっている。

新設住宅着工戸数（平成 26 年 12 月）は、高水準の前年（平成 25 年 12 月の前年比 +95.8%）対比でマイナスとなった（前年比△31.7%）。

—— 利用関係別にみると、持家が 9 ヶ月連続の前年割れとなったほか、貸家も 2 ヶ月連続のマイナスとなった。

この間、建設総合統計（岩手県出来高ベース；平成 26 年 12 月）は、平成 24 年 2 月以降 35 ヶ月連続で前年比を上回った（前年比+39.5%）。

3. 生産動向

鉱工業生産指数（季節調整値；平成 26 年 12 月）は、持ち直しに向けた動きがみられる（前月比（p）+1.6%；4 ヶ月連続の前月比プラス）。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境は、改善している。

有効求人倍率（季節調整値；平成 26 年 12 月）は、1.17 倍と直近ピーク（平成 26 年 5 月 1.13 倍）を更新した（1.00 倍以上は、20 ヶ月連続）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；平成 26 年 12 月）は、前年を上回る状態が続いている（前年比+0.5%）。

名目賃金指数（平成 26 年 11 月）は、「特別に支払われた給与」が前年対比で減少したことから、前年比△1.9%のマイナスとなった。

雇用者所得（県内合計値；平成 26 年 11 月）は、名目賃金指数の前年割れを主因に、3 ヶ月振りのマイナス（前年比△1.0%）となった。

5. 企業倒産

企業倒産（平成 27 年 1 月）は、4 件、3.3 億円となり、件数、金額とも前年を下回った。

6. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金、貸出は、前年を上回って推移している。貸出約定平均金利は、低下地合いを辿っている。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>